

14 新型コロナウイルス感染症〔指導資料〕

令和2年初頭から新たな感染症が世界中で流行した。その中で学校や病院、介護施設などではクラスターが発生するとマスコミはこぞって取り上げ、ネット上では誹謗中傷の書き込みが後を絶たなかった。また、感染者だけでなく、その家族、病気から回復した人たちまでもが差別的な扱いを受けるなどの被害が出た。

意図的に感染症に罹患したのではないし、感染を広めたわけでもないのに、なぜこのような差別や偏見、誹謗中傷などが起きてしまっているのかを考えさせたい。そして私たちが今後どのように新型コロナウイルス感染症や今後も出現する新たな感染症とどのように向き合って生活していけばよいのか。また、差別や偏見が生まれない社会にするためにはどのような取組みや工夫ができるかイメージさせたい。

また、何より安心して学校生活を送ることができるよう指導・支援することが重要である。

（1）差別や偏見などの事例

① 感染者・濃厚接触者やその家族等に関する事例

- ・仕事の制服を、家族に頼んでクリーニング店にもっていってもらったところ、職場にクリーニング店から連絡があり、「コロナの洗濯はできません」と言われたなど、本人氏名が公表されていないにも関わらず、個人が特定されていることがあった。
- ・新型コロナウイルス感染症により入院したことで、会社から雇い止めを受け、退職することとなった。
- ・レストランにおいて、感染者が在籍する大学と同じ大学の人に対して「関係者入店遠慮」の張紙が貼られていた。
- ・大学のクラブ活動関連施設でクラスター事案が発生し、同大学の学生等が不当な扱いを受けた。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する忌避意識から、感染者やその家族等が不当な差別、誹謗中傷を受ける事案が多数発生した。

② 医療従事者に対する事例

- ・患者と医師の感染が明らかになっていた県内の総合病院において、感染者の濃厚接触者ではないスタッフが、子どもの学童保育や保育所の受け入れを断られたり、配偶者が職場から出勤停止を命じられた。
- ・医療従事者やその家族に対して、いじめ、生活の維持に必要なサービスの提供拒否、保育園への登園拒否、行事への参加拒否等の差別事例が全国で多数発生。

③ 社会福祉施設、事業者、エッセンシャルワーカー等に関する事例

- ・集団感染が発生した社会福祉施設に「集団感染の公表後、施設へのいたずら電話や施

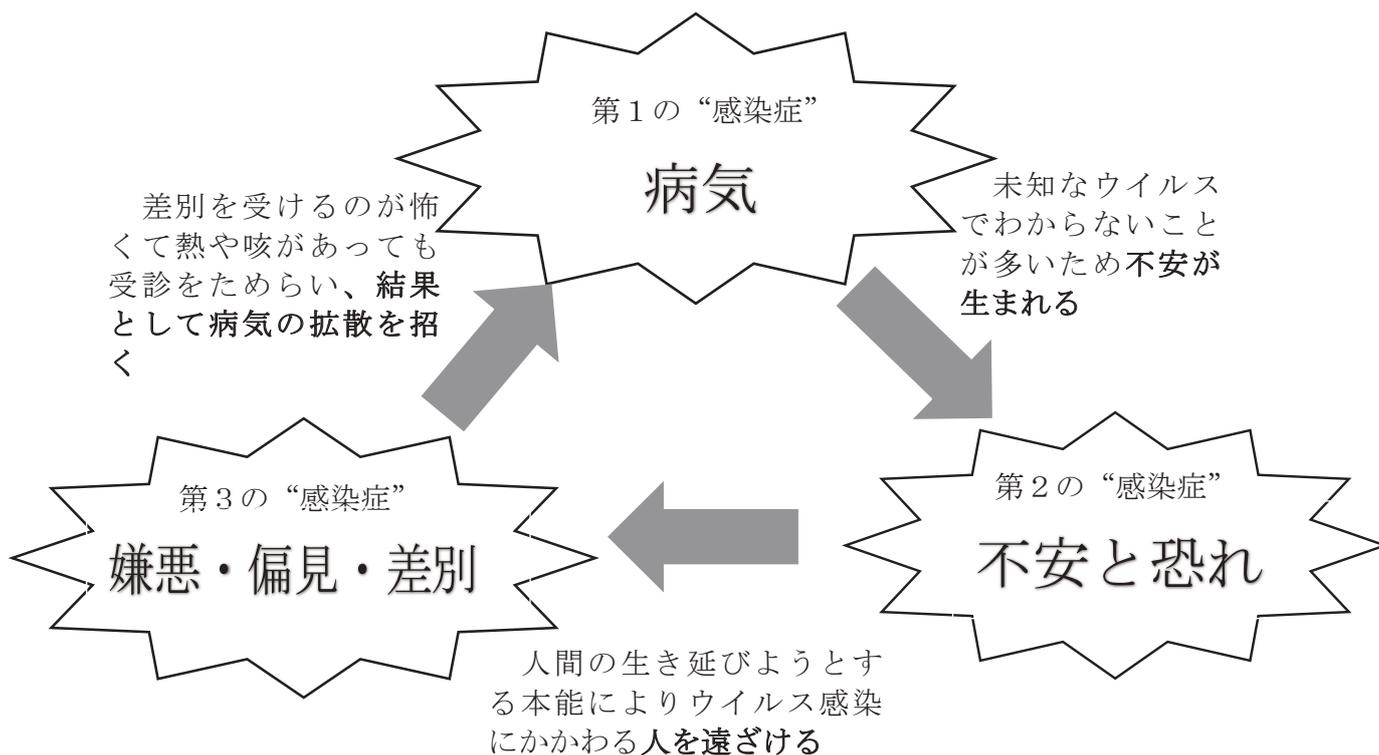
設職員の家族に対して感染発生に関する苦情電話等があった。

- ・ SNSに「感染源の店」「コロナ患者が働いている」「コロナ患者が立ち寄った店」等の書き込みがされた。
- ・ 感染拡大地域に仕事で往来する運送業（エッセンシャルワーカー）に携わる保護者に対し、学校長が児童・生徒の自宅待機を要請した。

④ その他

- ・ 県外在住者や県外ナンバー車の所有者等に対して、偏見・差別的言動、サービスの利用拒否、いじめ、不当な解雇があった。
- ・ インターネット上で実名や写真が拡散され、感染者や関係者が偏見・差別に苦しんだ事例が相次いで発生した。また、事実とは異なる情報が流布し、風評被害により営業が困難となる。
- ・ 感染事実がないにも関わらず、行動歴等によって差別を受けた事例や外国人等を対象とした差別などさまざまな事例が発生した。

(2) 感染症の負のスパイラル



この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることであります。新型コロナウイルスは、3つの“感染症”という顔をもって、私たちの生活に影響を及ぼしています。この負のスパイラルを断ち切るためには、一人ひとりがそれぞれの立場でできることを行う必要があります。

<参考資料>

日本赤十字社

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

第1の“感染症”

これは「病気そのもの」であり、このウイルスは、感染者とのさまざまな形での接触でうつることがわかっている。感染すると、風邪症状や重症化して肺炎を引き起こすことがある。

第2の“感染症”

これは「不安と恐れ」である。ワクチンが開発され、日本では多くの人々がこれを接種しているが、ブレイクスルー感染や変異株の発生、後遺症などが不安を増大させている。こうした不安は私たちの心の中で膨らみ、気づく力・聴く力・自分を支える力を弱め、瞬く間に人から人へ伝染していくこととなる。度重なる緊急事態宣言等による生活の制限は、心身の発達にも大きな影響をもたらし、進路選択にも不安は止まない。

第3の“感染症”

これは「嫌悪・偏見・差別」である。不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激する。そして、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人の信頼関係や社会のつながりが壊されていくことになる。見えない敵（ウイルス）への不安から、特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とし、偏見・差別をすることでつかの間の安心感を得られるためだといわれている。つまり、特定の人・地域・職業などに対して「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって差別や偏見が起こっていると言うことができる。

(3) 差別や偏見を生まないために

負のスパイラルを断ち切る必要がある。私たちは3つの“感染症”を防ぐために次のような取り組みや工夫が必要だと言われている。

第1の“感染症”を防ぐために、一人ひとりが衛生行動を徹底すること。「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」などウイルスに立ち向かうための行動を、自分のためだけでなくまわりの人のためにもすることが大切である。

第2の“感染症”に振り回されないために、不安や恐れは私たちの「気づく力」「聴く力」「自分を支える力」を弱めることがある。不安や恐れは身を守るために必要な感情であるが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもある。そこで、「気づく力」を高めるために、今の状況を整理したり、自分自身の考え方・気持ち・ふるまいなどを観察してみる。「聴く力」を高めるためにウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いていないか、生活習慣が乱れていないかなど、いつもの自分と違うところがないか確認をする。そして、「自分を支える力」を高めるためにウイルスに関す

る情報にさらされるのを制限し、距離をおく時間を作る。今自分ができていることを認める。今の状況だからこそできることに取り組んでみる。このように自分の安全や健康のために必要なことを見極めて自ら選択してみるなどの取組みや工夫を行う必要がある。

第3の“感染症”を防ぐために、不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めることにつながるので「確かな情報」を広めること、差別的な言動に同調しないことが大切である。また、「治療を受けている人や家族」「医療従事者」「多くの社会を支えている人」など感染症に対応しているすべての方々をねぎらい、敬意を払うことも大切である。

このように新型コロナウイルスなどの感染症は、病気そのものだけではなく人々の不安や恐れから多くの差別や偏見を生んでしまっている現状がある。私たち一人ひとりが新型コロナウイルス感染症などの病気に関して正しく理解し、それぞれの立場でできることを継続的に取り組んでいくことが、差別や偏見を生んでいる負のスパイラルを断ち切るために重要であるという理解を促す。

<引用文献>

- ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」
日本赤十字社 https://www.jrc.or.jp/saigai/news/200326_006124.html

<参考資料>

- ・「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」 文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00122.html
 - ・「感染者を責める私たち 新型コロナ」
朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/DA3S14651908.html>
令和2年10月9日
 - ・「恐れるべきはウイルスで人ではない。社会をむしばむ『コロナ差別』をなくすためには」 日本財団ジャーナル
<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/45019>
 - ・「偏見・差別の実態と取組等に関する調査結果」 令和2年10月
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/wg_h_3_6.pdf
 - ・「新型コロナウイルス～差別・偏見をなくそうプロジェクト～」 日本学校保健会
<https://stop-discrimination.hokenkai.or.jp>
- ※ このサイトでは、指導案やパワーポイント資料、映像教材、ワークシートなどをダウンロードして活用することができます。